

●FP2級の試験概要

(学科試験)

実施機関	金融財政事情研究会、日本FP協会（問題は共通）
試験時間	120分
出題形式	マークシート方式60問（四肢択一）
合格基準	36点以上（60点満点中）

(実技試験)

実施機関	金融財政事情研究会	日本FP協会
試験時間	90分	90分
出題形式	記述式15問	記述式40問
合格基準	60%以上	60%以上
選択科目	個人資産相談業務、生保顧客資産相談業務、損保顧客資産相談業務、中小事業主資産相談業務のうちから1つ選択	資産設計提案業務

(出所) 各教育機関HPをもとに筆者作成

った。その解法をテキストにも書き込むことで、類似の問題が出て来ても次第に対応できるので、試してみたい。
さらに試験日3カ月くらい前からは、次のようなスケジュールで動いた。
①最初の1カ月：基礎力向上
まず参考書を読む。今ほどの参考書もよくできているので、どの本でもよいと思う。

個人的には問題を解くことができる参考書が良い。ポイントには、分からないことがあっても、まずは一度すべて目を通すことだ。
もう1つ、「過去問」にも目を通す。私の場合、まず直

近3回分の問題をプリントアウトし、問題文1つひとつをハサミで切り、似たような問題についてはグループにして集めておくようにした。そうすると、よく出る問題が何か見えてくるのである。
②次の1カ月：基礎の実践
一通り参考書に目を通したら、直近の過去問3回分を解いていく。最初はほとんど点が取れないかと思うが、それで構わない。大事なものは、よく出る分野の問題の聞き方を押さえておくこと、自分がよく間違える分野を参考書に記録しておくことだ。
例えば、ライフプランニングの年金について間違えたところなら、参考書にどのような間違ったかをメモしておく。これを繰り返すことで、過去問については満点に近い数字が取れるようになる。
③最後の1カ月：応用力を養成する

POINT

- 試験は金融財政事情研究会と日本FP協会がそれぞれ主催
- 過去問を解きよく出る分野を把握しておくことが有効

直近3回分の過去問をほぼ正解することができれば、本番でも7割近くは正解できると思う。ただし、新しいジャンルの問題が出てきたときや、法律の改正点について問う問題が出たとき対処できない可能性がある。
そこで役立つのが、模擬試験や直前対策セミナーだ。試験日1カ月前くらいになると、各教育機関は、FP2級に関する模擬試験やセミナー等を開催することが多い。その講座を受けることで、改正点の対応や本番の雰囲気をつかむことができる。ぜひ参考にしてもらえればと思う。

資格・検定別

私の習得術と活用法

- ①池田孝行 理財実践塾代表取締役/CFP®/1級FP技能士
- ②⑤安元計皓 元地方銀行/中小企業診断士/宅建士
- ③佐藤純 中小企業診断士/日本証券アナリスト協会認定アナリスト
- ④服部繁一 ITストラテジスト

金融機関に馴染みがある資格を挙げ、資格取得のポイントを見ていく。

1 FP2級

過去問を繰り返し解くことで
出題分野や苦手科目を把握



F P2級（2級ファイナンシャル・プランニング技能士）とは、税金や不動産、相続、ライフプランニングなど、お金に関する幅広い知識を証する資格である。この資格を取得することのメリットは以下のとおりだ。

①お金の全体像を把握できる
金融機関では、相続や不動産の活用、保険のことなど多岐にわたるお金の相談を受ける。FP2級を取得しておくことで、お金がどんな関係で結びついていのかを把握できる。お客様の相談を包括的に受けて解決できる。
②自分自身のお金の流れについて考えるきっかけになる

私自身、FP資格を取得したことで将来を意識してお金を管理するようになった。給与から引き落とされる社会保険料から将来のおおよその年金額を計算したり、自分自身の判断で最適な保険に加入したり、証券会社に口座を作ったりして運用したりしている。
こうしたメリットがあるFP2級は、金融財政事情研究会が主催している資格と、日本FP協会が主催しているものに分かれる。試験の概要は図表のとおりだ。
それでは筆者の体験をご紹介します

過去問を解きつつ
改正内容も把握する

介しながら、FP2級を取得するためのポイントなどを紹介したい。
まず私自身、日々の仕事の中で、勉強する時間がなかなか取れなかった。そこで往復2時間30分かかっていた通勤時間の中で参考書を見たり、問題を解いたりしていた。そして週末に集中して勉強するうにしていた。
筆者の場合、年金の計算や相続税の計算など計算問題が特に苦手だった。23年1月実施の試験でも相続税評価は出題された分野だ。一通りテキストを見た後で問題を解いても解けなければ、先に解説を見て解法から覚えることもあ